

まえがき——ナチ親衛隊とは 芝健介 i

第1章 闘争組織の目立たぬ発足——一九二三—二九年…………… 3

- 1 ヒトラー—衝撃隊から親衛隊へ…………… 4
- 2 突撃隊指揮下、平凡な暴力集団…………… 12

第2章 ナチのなかでの特別意識——一九二九—三三年…………… 19

- 1 新しい全国指導者——ハインリヒ・ヒムラーの登場…………… 20
- 2 総統への忠誠の下に——ナチ党内の敵対勢力排除…………… 25

第3章 人種主義による「北方の新貴族」意識…………… 34

第3章 「黒色軍団」の人材とイデオロギ…………… 43

- 1 最良の「アーリア人」を求めて——選抜と採用…………… 44
- 2 親衛隊員への教育——スポーツと啓蒙…………… 58
- 3 黒い祭祀——ゲルマンの祭典、アーネンエルベの妄想…………… 70

第4章 警察組織の併呑——ナチ国家防衛の使命…………… 87

- 1 強制収容所の構築——過剰な暴力による支配…………… 88
- 2 ゲスターポの拡張、国家保安本部の設立…………… 99
- 3 政敵弾圧から民族防衛へ——予防拘禁、強制労働…………… 109

第5章 第二次世界大戦下の膨張——一九三九〜四五年…………… 115

1 武装親衛隊——「軍事エリート」の実像 116

2 ナチ人種妄想の現実化——東部総合計画と独ソ戦 132

3 ユダヤ人大量殺戮の凶行——ガス殺、絶滅収容所へ 148

第6章 戦後ドイツ社会と親衛隊——一九四五年〜…………… 161

1 終わらない「裁き」——非ナチ化と訴訟の続発 162

2 社会復帰の模索と拒絶——逃亡、連邦軍の拒否 176

3 変遷する親衛隊イメージ——ハンナ・アーレントを超えて 185

註記 193

訳者あとがき 207

解題+ナチ親衛隊研究の軌跡 芝健介 213

参考文献 231

ナチ親衛隊組織の変遷図 233

ナチ親衛隊 関連年表 242

ナチ親衛隊 関連年表

年 月 日	出来事
1919 1 9	ヒトラー、ドイツ労働者党に入党
1920 2 24	ドイツ労働者党、国民社会主義ドイツ労働者党（ナチ党）に改称、「25ヵ条綱領」を公表
1921 7 29	ヒトラー、ナチ党党首に選出
1923 5	3月設立のヒトラー警護班を「ヒトラー衝撃隊」と命名
11 8	～9日 ミュンヘン一揆
1925	～26年 『わが闘争』出版
1926 4	親衛隊編制開始
12	ヒトラー・ユーゲント発足
1929 1	ヒムラー、親衛隊全国指導者に就任
1930 8	シュテンネス叛乱
1931 12 31	親衛隊結婚命令
1932 7 31	総選挙、ナチ党得票率37.4%で第1党
1933 1 30	ヒトラー、首相に就任
2 17	ゲーリングによる「国家の敵」に対するプロイセン警察への発砲命令
2 27	国会議事堂炎上事件
28	議事堂炎上令（「国民と国家を防衛するための大統領緊急令」）発令
2	補助警察設立
2	親衛隊、懲戒処分・抗告令公布
3 20	ダハウに最初の強制収容所設置
3 23	全権委任法成立
4 1	ユダヤ系商店などへの全国ボイコット
4 7	職業官吏階級再建に関する法発布
7 14	新党設立禁止法（ナチ党独裁体制確立）
7 20	ヒトラー、ローマ教皇と政教条約締結

ナチ親衛隊 関連年表

	夏	パレスティナのユダヤ機関と「ハーヴァラ (移送) 協定」締結
	10 19	国際連盟脱退
1934	1 30	国家新編成に関する法
	2 28	国防軍「アーリア条項」受け入れ
	6 30	～7月2日 レーム事件
	8 2	ヒンデンブルク大統領死去, ヒトラーが首相・大統領を兼務 (総統はナチ党での名称)
	9 24	国防軍, 親衛隊武装 3 個連隊の存続を承認
1935	3 10	空軍独立
	3 16	一般兵役義務制導入
	7	「親衛隊主導冊子」発刊
	9 15	ニュルンベルク人種法 (ドイツ国民法, ドイツ人の血と名誉を守るための法) 公布
	11	親衛隊, 仲裁・名誉裁判所令公布 アーネンエルベ協会, レーベンスボルン設立
1936	2 6	～16日 ガルミッシュ＝パルテンキルヒェン冬季五輪
	3 7	ラインラント進駐
	6 17	ヒムラー, ドイツ警察長官に就任
	8 1	～16日 ベルリン夏季五輪
1937	3 28	ユダヤ教宗団体の法律関係に関する法公布
	12 14	強制収容所拡大と結びついた犯罪撲滅・予防法成立
1938	1 25	改定保護検束法
	3 13	オーストリア併合 (アンシュルス)
	4 26	ユダヤ人資産申告令公布
	7 5	～15日 仏, エヴィアンでユダヤ難民問題の国際会議
	8 26	ウィーンにユダヤ人出国中央本部設置
	9 29	～30日 ミュンヘン会談 (チェコのズデーテン地方の独への割譲決定)
	10 1	～10日 独軍, ズデーテン地方を占領
	10 28	～29日 ドイツ在住ユダヤ系ポーランド人追放
	11 7	ユダヤ系ポーランド人がバリのドイツ大使館員を狙撃

	11 9	～10日未明 11月ポグロム (水晶の夜)
	11 12	ゲーリング, ユダヤ人問題全権に就任
1939	1 24	ベルリンにユダヤ人出国全国センター設置
	1 30	ヒトラー, 国会演説で次の世界戦争におけるヨーロッパ・ユダヤ人絶滅を明言
	3 14	独軍, チェコスロヴァキアに侵攻 スロヴァキア独立宣言 (独の保護国化)
	3 16	チェコスロヴァキア解体, 「ボヘミア・モラヴィア (ペーメン・マーレン) 保護領」創設
	5 15	ラーヴェンスブリュックに女性用強制収容所開設
	8 23	独ソ不可侵条約締結
	8	障害者に対する「安楽死」作戦 (T4 作戦) 開始
	9 1	独軍, ポーランドに侵攻, ユダヤ人夜間外出禁止令
	9 3	英仏, 独に宣戦布告, 第2次世界大戦開始
	9 17	ソ連軍, ポーランドに侵攻
	9 21	ハイドリヒ, ユダヤ系ポーランド人の独編入領から東方への追放と鉄道沿線の共同体への集住を指示, ユダヤ人評議会設置を布告
	9 27	保安警察と親衛隊保安部を統合し国家保安本部設置 (長官ハイドリヒ)
	10 6	ポーランド降伏
	10 7	ヒムラー, ドイツ民族強化全権に就任
	10 8	ポーランド内ビオトルクフ・トリブナルスキに最初のゲットー設置
	10 26	ポーランド内に「総督領」設置
	10 28	親衛隊生殖命令
	10	ツィクロンBを使った最初のガス殺実験
	11	武装親衛隊発足
	11 23	ポーランド内10歳以上のユダヤ人, ダヴィデの星の腕章着用義務づけ
	12 5	ポーランドのユダヤ人資産没収
1940	2 8	ウーチにゲットー設置, 4月30日封鎖

ナチ親衛隊 関連年表

4 9	独軍, デンマークとノルウェーに侵攻	7 1	独軍, リガ占領, 7月末までにユダヤ人1万8000名殺害, 行動部隊D, ベッサラビアで作戦開始, 8月末までにユダヤ人約15万人を殺害
4 15	独国内, 障害者施設内ユダヤ人を拘束, 6月から殺害	7 27	～9月29日 プリビヤノ湿原(ベラルーシ)掃討作戦(ユダヤ人約3万5000名殺害)
4 20	ヒムラー, アウシュヴィッツに一大強制収容所建設指令	7 31	ハイドリヒ, ユダヤ人問題全面解決準備全権に就任
4 27	アウシュヴィッツ, 強制収容所として建設開始, 6月14日開所	8 15	ヒムラー, ネーベに射殺以外の殺害方法検討を依頼
5 10	独軍, ベネルクス3国に侵攻	8 24	教会などの抗議で障害者の「安楽死」作戦, 公式には中止
5 17	独軍, フランスに侵攻	9 1	独塊内ユダヤ人に黄色い星着用義務づけ
5 27	武装親衛隊髑髏師団, ル・バラディ(フランス)で英国兵捕虜99名を殺害	9 3	(5日?)アウシュヴィッツ収容所でツィクロンBによる殺害実験(ソ連兵捕虜など900人)
5	ラング指揮下の親衛隊特別行動隊, 1500人の独障害者をガス殺	9 8	レニングラード包囲開始
6 15	ソ連, バルト3国占領	9 17	大ドイツ国家領域内のユダヤ人移送開始
6 21	独仏休戦協定調印	9 26	独軍, キーウ占領
7 末	「マダガスカル計画」断念, ゲットー建設本格化	9 29	～30日「バビ・ヤールの虐殺」(キーウ近郊でユダヤ人3万3771名を殺害)
9 27	日独伊三国同盟締結	10 13	「ラインハルト作戦」開始, ヒムラー, ベウジェツ絶滅収容所の建設をグロボチュニクに委任
10 12	ワルシャワ・ゲットー設置, 11月15日封鎖	10	アウシュヴィッツ収容所内に大量殺戮を目的としたビルケナウ収容所建設開始
12 18	ヒトラー, ソ連侵攻を指令	10	独国内のユダヤ人, 出国禁止
1941 3 7	独塊内ユダヤ人強制労働義務導入	11 1	ベウジェツ絶滅収容所建設開始
3 13	国防軍最高司令部, 親衛隊の「特別任務」(ユダヤ人とポリシェヴィキの抹殺)遂行を承認	11 30	「リガの血の日曜日」, ユダヤ人約4000人を殺害
3 26	ハイドリヒ, ゲーリングにユダヤ人問題解決の計画案提出	12 8	ヘウムノ絶滅収容所でガス・トラックによる殺戮始動(～1943年4月7日)
3 30	ヒトラー, 国防軍将官にソ連との「絶滅戦争」について演説	12 11	日本の真珠湾攻撃を受け, 米に宣戦布告
4 6	独軍, ユーゴスラヴィアとギリシアに侵攻	12 15	モスクワ前面から敗退
6 6	国防軍最高司令部の「コミッサール命令」(ソ連兵捕虜のうち共産党委員は見つけ次第殺害)	1942 1 16	ヘウムノ絶滅収容所へウーチ・ゲットーから1万人以上移送, 1月29日に全員殺害
6 22	独軍, ソ連に侵攻, 独ソ戦開始	1 20	ヴァンゼー会議, ユダヤ人の全面追放から計画的大量殺戮への政策転換を確認
6 23	行動部隊を中心にソ連領内のユダヤ人射殺開始(行動部隊だけで半年間に約50万人殺害)		

ナチ親衛隊 関連年表

2 24	ヘウムノ絶滅収容所へウーチ・ゲッターから3万人以上移送。4月2日までに全員をガス殺
3 1	ソビブル絶滅収容所建設開始
3 17	ベウジェツ絶滅収容所始動
3 20	アウシュヴィッツ=ビルケナウ収容所でユダヤ人のガス殺開始。絶滅収容所化へ
3 28	仏のユダヤ人移送開始
5 7	ソビブル絶滅収容所始動
5 27	ハイドリヒ襲撃される(6月4日死亡)
7 15	オランダのユダヤ人移送開始
7 17	～19日 ヒムラー、アウシュヴィッツ、ベウジェツ、ソビブル各絶滅収容所訪問。以後、大量殺戮が恒常化
7 19	ヒムラー、総督領内のユダヤ人の抹殺を指示
7 22	ワルシャワ・ゲッターからトレブリンカ絶滅収容所への大量移送開始
7 23	トレブリンカ絶滅収容所始動
10	マイダネク絶滅収容所でガス殺開始
1943 2 2	独軍、スターリングラードで降伏
3 22	アウシュヴィッツ収容所でクレマトリウムⅣ(ガス室+焼却炉)が始動、以後6月までに4施設が始動
4 19	米英によるユダヤ人問題討議「バミューダ会議」開催
4 19	～5月16日 ワルシャワ・ゲッター蜂起
5 13	北アフリカの独伊軍降伏
8 2	トレブリンカ絶滅収容所で、ユダヤ人武装蜂起
8	グロボチュニク、ルブリンから異動
9 8	イタリア、連合軍に降伏
9 19	武装親衛隊、ポーヴェス(イタリア、ピエモンテ近郊)の住民24名を殺害
10 13	イタリア、独に宣戦布告
10 14	ソビブル絶滅収容所でユダヤ人武装蜂起
10 19	「ラインハルト作戦」終了
10 30	連合国の「モスクワ宣言」

11 3	マイダネク絶滅収容所で1万7000名のユダヤ人銃殺
11 28	～12月1日 テヘラン会談(チャーチル、ローズヴェルト、スターリンが欧州第二戦線構築などを協議)
11	トレブリンカ絶滅収容所を閉鎖、解体
1944 3 19	独軍、ハンガリー占領
4 7	アウシュヴィッツ収容所脱走のルドルフ・ウルバラ2名、大量殺戮情報を連合国に伝える
5 15	独、ユダヤ系ハンガリー人の集団移送開始。7月9日までに約45万名、大半がアウシュヴィッツ収容所へ
6 4	連合軍、ローマ占領
6 6	連合軍、ノルマンディーに上陸
6 10	武装親衛隊、オラドゥール・シュル・グラス(フランス)の住民642名を殺害
7 20	ヒトラー暗殺未遂事件
7 23	ソ連軍、マイダネク絶滅収容所を解放
7 24	ソ連軍、ルブリン解放
8 7	～30日 ウーチ・ゲッターの解体、アウシュヴィッツへユダヤ人7万4000名移送
8 22	連合軍、アウシュヴィッツ収容所空爆開始
8 25	連合軍、パリ解放
9 3	アンネ・フランク、アウシュヴィッツ収容所へ移送
10 7	アウシュヴィッツ収容所でユダヤ人武装蜂起
11 26	アウシュヴィッツ収容所で最後のユダヤ人「選別」
1945 1 6	アウシュヴィッツ収容所で最後の「処刑」
1 17	ソ連軍、ワルシャワ解放
1 18	アウシュヴィッツ収容所から囚人6万6000名が独へ向かう「死の行進」開始
1 20	アウシュヴィッツ収容所で最後のクレマトリウム爆破
1 27	ソ連軍、アウシュヴィッツ収容所を解放
2 3	ソ連軍、ブダペスト解放
2 4	ヤルタ会談
2	～4月 ソ連軍侵攻地域の収容所から、収容者を独内

ナチ親衛隊 関連年表

	の強制収容所に向かわせる「死の行進」
4 11	米軍、ブーヘンヴァルト強制収容所を解放
4 15	英軍、ベルゲン＝ベルゼン強制収容所を解放
4 29	米軍、ダハウ強制収容所を解放
4 30	ヒトラー自殺
5 5	米軍、マウトハウゼン強制収容所を解放
5 7	～9日 独軍、無条件降伏
5 23	ヒムラー自殺
11 20	～1946年10月1日 ニュルンベルク国際軍事裁判
1946 10 25	～1949年4月14日 ニュルンベルク継続裁判
	オイゲン・コーゴン『SS国家』刊行
1949 5 23	ドイツ連邦共和国（西ドイツ）基本法発効
10 7	ドイツ民主共和国（東ドイツ）建国
	ミュンヘンに現代史研究所設立
1955 5 5	西ドイツ再軍備
1956	ジェラルド・ライトリンガー『親衛隊——国民のアリバイ』刊行
1958 3	～8月 ウルム行動部隊裁判
	ルートヴィヒスブルクにナチ犯罪追及センター設立
1961 4 11	～12月 エルサレムでアイヒマン裁判
1963	ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン——悪の陳腐さについての報告』刊行
12 20	～1965年8月20日 アウシュヴィッツ裁判
1979	西ドイツで謀殺罪の公訴時効廃止
1985 5 5	ビットブルク事件
1986	歴史家論争
1990 10 3	ドイツ統一
1995 1 29	～99年 国防軍展覧会（「絶滅戦争 国防軍の犯罪 1941～1944」）、独逸各地を巡回
2006	ギンター・グラス、武装親衛隊戦車師団入隊を告白
2009 7	～11年5月 デミヤニク裁判

出典：芝健介『ホロコースト』（中公新書、2008年）を基に記者作成